

【1】 次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、小学校（中学校）学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）特別の教科 道徳編「第2節 道徳科の目標」の一部である。次の（ア）～（ウ）に入る語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

特定の価値観を押し付けたり、（ア）をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。多様な（イ）の、時に対立がある場合を含めて、自立した個人として、また国家・社会の形成者としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら（ウ）姿勢こそ道徳教育が求めるものである。

- ① ア 積極性    イ 考え方    ウ 議論する
- ② ア 主体性    イ 価値観    ウ 考え続ける
- ③ ア 客観性    イ 価値観    ウ 議論する
- ④ ア 主体性    イ 生き方    ウ 考え続ける
- ⑤ ア 客観性    イ 生き方    ウ 受け止める

1

- (2) 小学校（中学校）学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）特別の教科 道徳編「第2節 道徳科の目標」等に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行うことが重要である。
- ② 道徳科が目指すものは、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ③ 道徳的価値の理解のための指導をする際には、道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解することも必要である。
- ④ 道徳科の学習を進めるに当たっては、自己を見つめ、物事を（\*広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（\*人間として）の生き方についての考えを深める学習にする必要がある。
- ⑤ 児童（\*生徒）が道徳的価値を自覚し、自己（\*人間として）の生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、（\*及び）状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるようにすることが大切である。

（\*は、中学校、特別支援学校中学部）

2

(3) 小学校(中学校)学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)の「第3章 特別の教科 道徳」の内容項目について、(ア)～(ウ)に入る語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- A 主として(ア)に関する事
- B 主として人との関わりに関する事
- C 主として集団や(イ)との関わりに関する事
- D 主として(ウ)や自然、崇高なものとの関わりに関する事

- ① ア 自分自身    イ 社会    ウ 環境
- ② ア 自己        イ 地域    ウ 環境
- ③ ア 自分自身    イ 社会    ウ 生命
- ④ ア 自分自身    イ 地域    ウ 宇宙
- ⑤ ア 自己        イ 社会    ウ 生命

【2】 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

一 傍線部 c、d、f のカタカナを漢字に直せ。(解答用紙に記入せよ。)

二 傍線部 a、b、e の漢字の読みをひらがなで書け。(解答用紙に記入せよ。)

三 筆者は傍線部①で、江戸時代の都市、江戸のことを表現している。後半の文章でも、江戸のことを表現している箇所があるがそれはどこか。文章中より六字で抜き出して答えよ。ただし、句読点は含まない。(解答用紙に記入せよ。)

四 傍線部②の「丁稚」に関する事柄の中には、「手代」と共通する事柄がある。前半の文章の言葉で該当する事柄は何か。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 住み込みで働くこと
- ② 労働力として機能しない
- ③ 研修を受けている段階
- ④ 掃除や力仕事などの雑用
- ⑤ 見習いの仕事ばかり

4

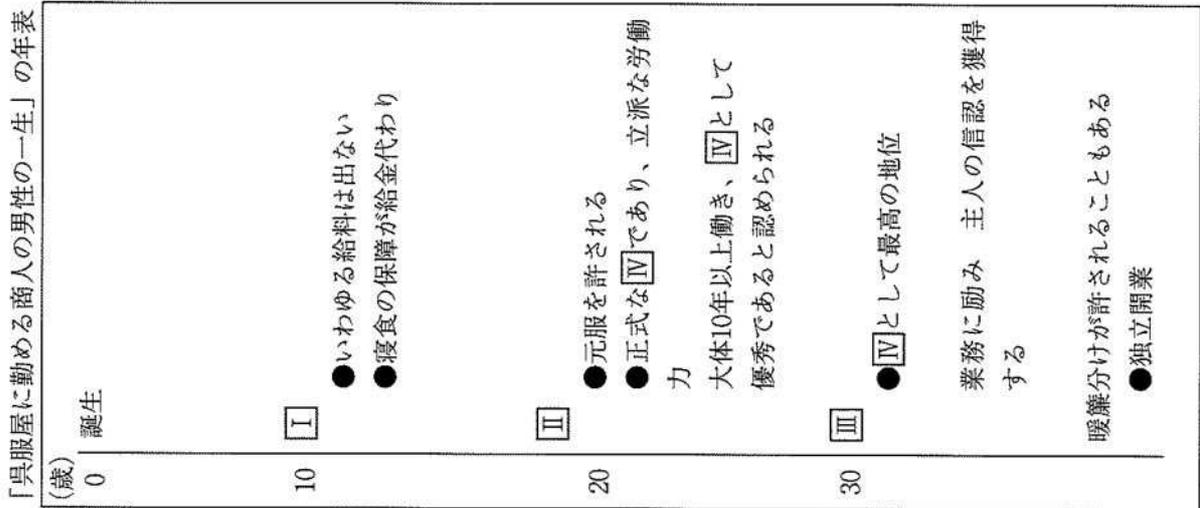
五 傍線部③の「お仕着せ」は敬語を含んでいるが、どの種類の敬語表現か。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 尊敬語
- ② 謙讓語
- ③ 丁寧語
- ④ 二重敬語
- ⑤ 丁重語

5

六 次に示すのは、本文の前半の文章を読んだ生徒が作成した年表である。年表のⅠ Ⅱ Ⅲにあてはまる語句は何か。文章中よりそれぞれ二字で抜き出して答えよ。(解答用紙に記入せよ。)

また、Ⅳにはいずれも同じ語句が入る。Ⅳにあてはまる語句は何か。文章中より三字で抜き出して答えよ。(解答用紙に記入せよ。)



七 筆者は後半の文章に題を付けている。Aに入る適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 昇進
- ② 出世
- ③ 離婚
- ④ 再婚
- ⑤ 晩婚

6

八 傍線部④「これもまた正確な事実の認識に基づいたものとはいえない。」と、同じように筆者が否定している内容は何か。後半の文章より適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 余り能力が高くない場合、頑張っても番頭となれるのは三〇歳代後半だった。
- ② 雇われ商人の多くは、無事に結婚できても、三〇歳を過ぎていたと考えてよい。
- ③ 一般に、江戸時代、しかも農村においては、初婚年齢は相当低いものだった。
- ④ 江戸時代といえども、男性はそれほど早くに結婚していなかったのである。
- ⑤ 女性たちは今とは比較にならないくらい、たくさんの子どもを生んでいた。

7

九 《A》《B》《C》に入る言葉の組合せとして適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 《A》 安定 《B》 流入 《C》 増加
- ② 《A》 増加 《B》 安定 《C》 流入
- ③ 《A》 流入 《B》 増加 《C》 共生
- ④ 《A》 共生 《B》 増加 《C》 安定
- ⑤ 《A》 増加 《B》 共生 《C》 安定

8

十 空欄ア、イ、ウにあてはまる接続詞はどれか。適切なものを①～④からそれぞれ選び、番号で答えよ。

- ① そして
- ② ただし
- ③ または
- ④ しかし
- ⑤ だから

ア	9	イ	10	ウ	11
---	---	---	----	---	----

十一 **後半**の文章の内容と合致しているものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 江戸時代の平均初婚年齢は、現在より男性は三～六歳ほど、女性は五～十一歳ほど上だった。
- ② 江戸時代の平均寿命は、多くの学者の研究から二六五年間を通して五〇歳代だったと分かっている。
- ③ 江戸時代に都市部で人々が「どんどん死んでいた」要因の第一は、赤痢という流行病である。
- ④ 江戸時代の中・後期の農村においては、おおむね七歳になるまでに二割の子が死亡していた。
- ⑤ 江戸時代の平均寿命の平均値を引き下げたのは、流行病や乳幼児の段階で死んだ人の多さからである。

12

十二 **後半**の文章で筆者が言いたかったことは何か。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 手代に結婚は許可されず、自分の家を持つことが許されるのは、番頭になった後である。
- ② 最終的には結婚をして家庭を持てるのであれば、それはそれで結構な人生だ。
- ③ 職場での出世競争以上に、「死なずに生き抜くこと」が何より難しかったのである。
- ④ 今とは違った意味で、一生涯未婚の人々が多い時代だったといえるだろう。
- ⑤ 小さな子どもが背負っていた赤子は、いつ神様の元に帰ってしまうかわからない。

13

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

【3】 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、作問の都合上表記を一部変えている。

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

(注) 唯蓮坊……船に入り込む水を「湯」と云い、「唯」の字の「ゆ」という音にかけている。

一 文中の会話文で「 」がついていないところが一カ所ある。始めと終わりの五字を抜き出せ。ただし、句読点は含まない。(解信用紙に記入せよ。)

二 傍線部ア、イ、ウの解釈として適切なものを①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

- ア ① 縁起でもない ② 非礼である  
③ とんでもない ④ びっくりした  
⑤ 認められない
- イ ① 物足りなくて気分が晴れない ② 不審に思い疑念が広がる  
③ 揚げ足取りで我慢ならない ④ 恐ろしくて胸がふさがる  
⑤ 挑戦的な物の言い方で不快だ
- ウ ① まったく違うことで ② それほどまでに  
③ 極端に言えば ④ そうは言っても  
⑤ そうなってしまうと

ア	15	イ	16	ウ	17
---	----	---	----	---	----

三 傍線部Aにおいて、「唯蓮坊、いよいよ恐ろし」と言われるのはなぜか。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 若い法師が便船を求めて渡りに出て来たから。  
② 若い法師が船びとの問いに「風早」という言葉を出して答えたから。  
③ 若い法師の言葉に船に入り込む水を指す「ゆ」と同じ音があるから。  
④ 若い法師が船賃を持たない様子である上に、口が悪かったから。  
⑤ 若い法師が船賃に大豆を一升もあふれるほど持ってきていたから。

四 会話文B、Cの主語として最も適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① B 唯蓮坊 C 風早
- ② B 御坊 C 風早
- ③ B 船びと C 若き法師
- ④ B 御坊 C 船びと
- ⑤ B 船びと C 唯蓮坊

19

五 空欄部Dに入る動詞を活用に注意して書け。(解答用紙に記入せよ。)なお、この動詞は本文中の他の箇所でも用いられている。

六 傍線部E「らむ」の文法的説明として正しいものを、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 完了の助動詞「り」の未然形＋意志の助動詞
- ② 現在推量の助動詞「らむ」の終止形
- ③ 四段活用動詞未然形の活用語尾＋意志の助動詞
- ④ 打消しの助動詞「ず」の未然形活用語尾＋意志の助動詞
- ⑤ 形容詞未然形の活用語尾＋意志の助動詞

20

七 本文中では、船びとたちも、思わず反応して忌み言葉を発言してしまっている。船びとが発した忌み言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① いまいましー 恐ろしー こぼれこぼれ
- ② 唯蓮坊ー 忌む習ひー 口の悪さ
- ③ 風早ー いまいましー いぶせきに
- ④ 風早ー 唯蓮坊ー こぼれこぼれ
- ⑤ こぼれこぼれー 降り給へー むつかしく

21

八 本文の出典は『沙石集』である。これと異なるジャンルの文学作品を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 古今著聞集
- ② 栄花物語
- ③ 日本霊異記
- ④ 宇治拾遺物語
- ⑤ 十訓抄

22

【4】 次の漢詩を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で一部の送り仮名を省いている)

著作権保護の観点により、  
掲載いたしません。

- (注) 1 舎弟……弟  
2 悄悄……しよんぼりする様子  
3 去住……去る者も留まる者も  
4 盤桓……立ち去らず徘徊する様子  
5 懷抱……心に思ふこと

一 この詩の中から、「作者」、「舎弟」を表す語をそれぞれ二字ずつで探して書け。(解答用紙に記入せよ。)

二 傍線部 a 「及<sup>レ</sup>此<sup>ニ</sup>暫<sup>ク</sup>為<sup>リ</sup>別<sup>ル</sup>」の口語訳として、最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ずっと苦楽を共にしてきた兄弟なのに、永遠の別れを迎えた  
② 何度も立ち去りかねたけれども、最後にようやく別れて  
③ あれほどかつて仲が良かったが、互いの心は離れてしまつて  
④ ずっと兄弟一緒だったが、ようやく別々に暮らすことになつて  
⑤ この度、しばらく別れて暮らすことになつた

三 傍線部 b 「庭葉盡」とは何のどんな様子を表しているのか。最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 辺りが整然として物寂しい様子
- ② 季節が深まり寒くなった様子
- ③ 作者の弟に対する思いが尽きない様子
- ④ 何度も季節が廻り時間が経過した様子
- ⑤ 作者の孤独な悲しみが一層深まった様子

24

四 傍線部 c 「復<sup>ま</sup>思<sup>ふ</sup>山路<sup>の</sup>寒<sup>さ</sup>」を書き下し文にして書け。(解答用紙に記入せよ。)ただし、第九句の「況んや」と呼応させること。なお、傍線部 c の送り仮名は一部省かれている。

五 傍線部 d に使われている語法について、最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 反語
- ② 使役
- ③ 可能
- ④ 受身
- ⑤ 限定

25

六 この詩で、作者が旅中の弟を心配する理由が最も端的に述べられている句を探し出し、その句の最初の一字を書け。(解答用紙に記入せよ。)

【5】 次の問いに答えよ。

一 次の傍線部のカタカナにあてはまる漢字を含むものを、各群の①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

ア 休校処置のヨウセイをニュースで知った

- ① ヨウセイから観察記録を取り続けた
- ② 全員がヨウセイ所で研修できる訳ではない
- ③ 検査でヨウセイ反応の出る割合が増加した
- ④ ヨウセイが登場する作品は世界中に見られる
- ⑤ ヨウセイを受けて出動し、被災地へ向かう

イ 行動をキセイすると委縮する

- ① あの建物の完成はキセイの事実である
- ② 町の北部は交通のキセイが行われている
- ③ 店に行ってキセイの品物を購入した
- ④ 盆や正月にはキセイをすることになっている
- ⑤ 政治資金のキセイは当然のことである

ア	26	イ	27
---	----	---	----

二 ア～ウの語句の意味として適切なものを、各群の①～⑤からそれぞれ選び、番号で答えよ。

ア 砂をかむよう

- ① 味わいや面白みがない
- ② 悔しくてたまらない
- ③ 苦い経路をする
- ④ たくさんあつて見分けがつかない
- ⑤ すべてが無駄になる

イ 舌の根の乾かぬうちに

- ① 舌に料理の味が残っているうちに
- ② いつわりを言ったすぐそのあとに
- ③ 自分の失敗をすぐに忘れてしまったように
- ④ 口にしたすぐ後に反対のことを言うように
- ⑤ ことばを言い終わるか終わらないうちに

ウ えも言われぬ

- ① うまく表現するすべがない
- ② 何とも言葉では表せない
- ③ 今まで誰も口にしたことのない
- ④ うまく言われてもだまされない
- ⑤ どんな表現もあたらない

ア	28	イ	29	ウ	30
---	----	---	----	---	----

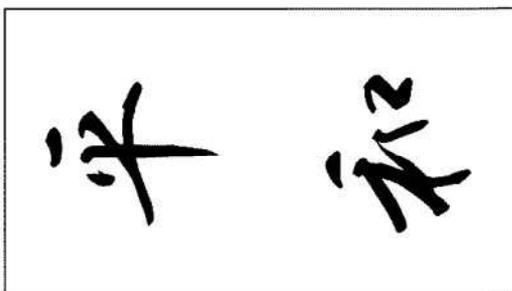
三 中学校の書写の指導について、後の問いに答えよ。

(1) 中学校で履修すべき「書写」の各学年の単位時間として適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。ただし、上から「1年」「2年」「3年」とする。

- ① 20時間 | 20時間 | 20時間
- ② 30時間 | 20時間 | 10時間
- ③ 20時間 | 25時間 | 30時間
- ④ 20時間 | 20時間 | 10時間
- ⑤ 10時間 | 20時間 | 20時間

31

(2) 次の行書で書いた文字を指導をする際、その指導事項として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 点画が連続したり、省略されることに注意すること。
- ② 直線的で、より力強い感じが出るように注意すること。
- ③ 一つの画の中での、筆圧の変化に注意すること。
- ④ 止めや払いの方向や形が変化することに注意すること。
- ⑤ 点画の形が、丸みを帯びることに注意すること。

32

四 次の問いに答えよ。

- (1) 次は、中学校学習指導要領解説(平成二十九年七月 文部科学省)国語編で、「第1章 総説 2 国語科の改訂の趣旨及び要点 (1)目標及び内容の構成」にある「②内容の構成の改善」の一部である。□A□と□C□に該当する言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く□A□として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、□A□と□B□は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

こうした□A□と□B□の育成において大きな原動力となるのが□C□である。□C□については、教科及び学年の目標においてまとめて示し、指導事項のまとまりごとに示すことはしていない。教科及び学年の目標において挙げられている態度等を養うことにより、□A□と□B□の育成が一層充実することが期待される。

- ① A 「思考力、判断力、表現力等」 B 「知識及び技能」  
C 「学びに向かう力、人間性等」
- ② A 「学びに向かう力、人間性等」 B 「知識及び技能」  
C 「思考力、判断力、表現力等」
- ③ A 「思考力、判断力、表現力等」 B 「学びに向かう力、人間性等」  
C 「知識及び技能」
- ④ A 「学びに向かう力、人間性等」 B 「知識及び技能」  
C 「知識、情報、技術等」
- ⑤ A 「知識及び技能」 B 「思考力、判断力、表現力等」  
C 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 次は、高等学校学習指導要領（平成三十年三月告示 文部科学省）で示された国語科の目標である。小学校及び中学校の指導との一貫性を図りながら、高等学校の目標を掲げている。小学校及び中学校の国語科の目標のいずれにもなく、高等学校の目標にのみ掲げている言葉の組合せとして適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

(3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

- |   |             |           |            |
|---|-------------|-----------|------------|
| ① | 言葉による見方・考え方 | —— 理解     | —— 思考力     |
| ② | 社会生活        | —— 想像力    | —— 言葉のもつ価値 |
| ③ | 的確          | —— 生涯にわたる | —— 他者との関わり |
| ④ | 言語活動        | —— 伝え合う力  | —— 言語感覚    |
| ⑤ | 資質・能力       | —— 言語文化   | —— 尊重      |

受験番号

### ③ 中高 国語科 解答 用 紙

計

#### 【2】

一	c	d	f	
二	a	b	e	
三				
六	I	II	III	IV

②小計

#### 【3】

一		
五		

③小計

#### 【4】

一	[作者]		[舎弟]	
四				
六				

④小計

